

第 71 回 虎屋文庫資料展のご案内

「子どもとお菓子」展

2009年5月17日(日)～6月16日(火) 10:00～17:30

虎屋ギャラリー(虎屋ビル2階) 入場無料/会期中無休

地下鉄赤坂見附駅A出口より徒歩約7分

今も昔も子どもたちはお菓子が大好き。今回は、江戸～大正時代を中心に、駄菓子屋や縁日のお菓子ほか、子どもの健やかな成長を願って用意された一升餅や、端午の粽・柏餅などをご紹介します。

江戸時代のコンビニ、ばんごや番小屋を復元

江戸の各町の出入り口に設けられた木戸の脇には、町の治安を守る番小屋があり、警備のかたわら、日用品のほか、手軽に買える飴や干菓子などの駄菓子や玩具を販売しました。現在のコンビニエンスストアのようなものだったといえましょう。そんな江戸時代の番小屋を再現します。

明治から大正時代の駄菓子

現在の駄菓子屋のかたちは、明治時代の中頃にできあがったとされます。熱した鉄板の上に溶いた小麦粉生地を様々な形に落として焼く「もしゃ文字焼き」を作れる店もあり、人気がありました。駄菓子の多くは、江戸時代からあまり変わらなかったと考えられていますが、明治時代になって登場したものとしては、ガラス瓶に入ったみかん水、ニッキ水などがあります。

お菓子を食べて大きくなあれ

赤ちゃんがころころ生まれるようにと願った「ころころ餅」、宮参りや七五三の千歳飴など、子どもの健やかな成長を願って用意されるお菓子をご紹介します。また、1歳の誕生日を迎えた時、子どもに背負わせたり踏ませたりする「いっしょうもち一升餅」の模型を用意しました。実際にその重さを体験してください。

月見団子が盗まれた！

子どもとお菓子が関わる年中行事では、上巳（^{じょうし} 雛祭）や端午（^{たんご}）がよく知られていますが、なかには一風変わった風習が伝わる地方もあります。雛祭りに河原で粥を作る「お雛粥」や、十五夜に、子どもが団子や供え物を盗む「^{つきみどろぼう} 月見泥棒（^{だんごづつ} 団子釣り）」などを、映像も交えてご紹介します。

このほか、漫画仕立ての子どもとお菓子の笑い話、明治時代の育児書から見たおやつなど、子どもとお菓子にまつわる多彩な話題を集めました。週末限定で、お手玉や双六など、懐かしい遊びを実際に体験していただけるコーナーも設けます。是非、遊びにいらしてください。

主な展示品

江戸時代の番小屋の復元。みかん水・ニッキ水など駄菓子屋のお菓子、年中行事や人生儀礼にかかわる雛菓子や餅など、お菓子約35点。子どもとお菓子にちなむ錦絵、人生儀礼に関する古文書、調べ学習に便利なお菓子の本ほか。

展示解説 毎週月曜日 10:30～。参加自由。

講演会 6月13日（土）「子どもと人形 そしてお菓子」

黒田日出男先生（立正大学教授・群馬県立歴史博物館長）

14:00～15:30 於：赤坂区民センター 区民ホール

* 往復はがきに住所・氏名・電話番号をご記入の上、下記住所虎屋文庫までお申し込み下さい。切 6月2日（火）必着。はがき1枚お一人様有効（申し込み多数の場合は抽選）。

お問い合わせ先

〒107-8401 東京都港区赤坂 4-9-22 株式会社 虎屋 虎屋文庫

Tel 03-3408-2402 Fax 03-3408-4561

e-mail bunko@toraya-group.co.jp

<http://www.toraya-group.co.jp/>

* 同封の写真は、「古今名婦伝 巴御前」です。